



東京都



埼玉県

離れていても、
安心させたい人がいる！



東日本大震災の際には、公共交通機関が長時間にわたり運行を停止したことにより、多数の帰宅困難者が発生しました。

災害発生後すぐに帰宅しようとする、余震等で二次被害に遭う可能性があり、大変危険です。

安心させたい人がいる。

地震発生後は、むやみに移動せず、
安全な場所に留まりましょう！

離れていて不安でも、帰らない・帰さない

- ▶ 東日本大震災時、徒歩で帰宅した人が必要と感じた情報として「家族の安否確認」が最も多く挙げられました。
- ▶ 発災時には家族同士が企業や学校等の離れた場所にいることも考えられます。
- ▶ 例えば、子供の安否が気になった保護者が会社から帰宅を開始すると、自らを危険にさらすだけでなく救命救助活動の妨げとなるおそれがあります。



発災時は状況を把握し、適切な行動を！

- ▶ まずは、むやみに移動せず、安全な場所に留まることが重要です。
- ▶ 身の回りの安全を確認できたら、行政・テレビ・ラジオ等での情報収集や家族の安否確認を行いましょう。



事前準備のポイント

■企業

一斉帰宅の抑制等の適切な行動をとれるように、安否確認手段を従業員へ周知しておくことが重要です。

■学校等

児童・生徒の安否や所在等の情報提供の方法について、保護者と共有することが重要です。

■保護者

安否確認手段を家族同士で確認し合い、スムーズにサービスを利用できるように、使い方を共有しておくことが重要です。



安否を確認する手段（災害用伝言ダイヤル「171」、LINE等のアプリ等）を複数準備しておくこと、いざという時に役立ちます。



<東京・埼玉連携ホームページ>

東京都と埼玉県では、連携して災害時の一斉帰宅抑制の普及啓発を行っています。連携の詳細はHPをご確認ください。



<一斉帰宅抑制の普及啓発動画>

大規模な災害に遭遇した際の取るべき行動を簡潔にまとめてあります。ぜひ一度ご覧ください。



<本件に関するお問い合わせ>

東京都総務局総合防災部防災管理課
03-5388-2529

埼玉県危機管理防災部災害対策課
048-830-8181

